

あか な せ と や ま じょう 赤穴瀬戸山城

登山ガイドマップ



飯南町へのアクセス

飯南町は島根県中南部にあり、広島県との県境、周囲を1,000m前後の琴引山や大万木山などに囲まれ、平地地の標高が約450mの県内でも代表的な高原地帯です。

■広島方面から約1時間40分
広島IC～(山陽道・広島道・中国道)～三次IC～(R54)～飯南町

■松江方面から約1時間30分
松江玉造IC(山陰道・松江道)～吉田・掛合IC～(R54)～飯南町



道の駅「赤来高原」 島根県飯石郡飯南町下赤名880-3 電話番号 0854-76-9050 営業時間 9:00～18:00 定休日 水曜日 URL https://www.satoyamania.net/ 地元食材を使った料理や手作りパンが楽しめるレストラン。	道の駅「頓原」 全国的に珍しい宿泊できる道の駅 島根県飯石郡飯南町花栗48 電話番号 0854-72-1111 営業時間 9:00～17:30 定休日 木曜日 URL http://www.r-yamanami.com/ レストランでは地域の伝統的なワニ料理(サメ)が食べられます。
--	--

お車は飯南町役場下駐車場にお停め下さい	飯南町役場 CATV・改善センター	道の駅 赤来高原	国道54号
飯南町役場下駐車場			

【赤穴瀬戸山城】

赤穴瀬戸山城は標高631mの衣掛山に築かれ、東西約400m、南北約200mに及ぶ広大な山城です。出雲と石見、備後の国境に位置し、銀山街道、出雲街道などが離合集散する街道の要衝にあった赤穴瀬戸山城は、戦国時代には尼子、大内・毛利の戦場となりました。江戸時代には、隣国と街道を監視する堀尾氏の支城として松田左近が派遣され、城の石垣化と城下町の整備が行われました。

主郭からは赤名市街地が一望でき、石垣や虎口、土塁など城の構造を見ることができます。

【武名ヶ平城】

1562年に毛利元就が赤穴氏を攻めた際の陣城で、赤穴瀬戸山城の背後にそびえる標高724mの武名ヶ平山に築かれています。山頂から延びる尾根筋には、無数の削平地が構築されています。

赤名小学校裏の登山口から瀬戸山城までは、およそ30分、瀬戸山城から武名ヶ平山山頂までは、40分ほどかかります。登山道には、城郭の解説板や登山者を和ませる手作りの看板が設置されています。



【赤穴瀬戸山城略年表】

1377年 (永和3)	つねつら 佐波常連が築城に着手したと伝えている。
1542年 (天文11)	大内義隆が率いる尼子遠征軍(陶・毛利氏など4万)によって包囲、攻撃される。田中三郎左衛門率いる富田城からの援軍1千人と赤穴軍1千人が籠城、神戸川が堰き止められた赤名の水海を挟んで応戦するも1か月半にわたる攻防の末、落城。
1562年 (永禄5)	再び尼子遠征軍(毛利元就ら)との戦場となる。毛利元就は瀬戸山城を見下ろす武名ヶ平山に陣城を構築、瀬戸山城の赤穴氏は次第に陣地を失い、屈服、毛利氏に降る。
1600年ごろ	関ヶ原の戦いののち、松田左近吉久は堀尾吉晴から瀬戸山城を賜り入城。近世城郭への改修を行うとともに、城下に市街地を移転させる。
1615年以降 (元和1)	一国一城令の後、しばらくして廃城となる。堀を埋め石垣を壊すなど「破城」が行われたが、道路改良に石材が転用された明治期までは、城跡としての景観を良く残していたと言われている。

赤穴瀬戸山城や飯南町の観光情報は飯南町観光協会へ!!

0854-76-9050

受付時間 9:00～17:00 (水曜日・年末年始は除く)

【1542年の戦い 瀬戸山城攻防戦】

1540年、尼子氏による毛利氏攻めが失敗に終わったことを受け、1542年、周防国の戦国大名大内義隆は尼子氏の本拠地月山富田城を目指し、二万ともいわれる大軍を率いて出雲国を攻撃しました。大内氏の軍勢を前に、出雲国内の諸将が次々と大内氏に与する中、尼子方を貫く赤穴瀬戸山城は最初の合戦の舞台となりました。

城下を湖水化し、富田城からの援軍を合わせ、二千人の兵で城に籠城した城主赤穴光清は、大内方の攻撃を度々退けましたが、総攻撃の際、流れ矢にあたり戦死しました。城は落ちましたが、緒戦において、1か月半にわたって大内軍の進軍を阻んだことは、後の月山富田城の戦いを尼子方の勝利に導く要因となったといわれています。

【関連史跡】

●明窓院

瀬戸山城主赤穴幸清の室、明窓院殿興隆妙顕大姉が開基と伝える寺院。



●松田左近の墓

堀尾吉晴の家臣で瀬戸山城に派遣されました。『松田氏系譜』には「(左近) 賜石州阿加奈城二万石」とあります。

●赤穴瀬戸山城の石垣

堀尾吉晴から瀬戸山城を賜った松田左近は、高層の建物や頑丈な城門を築くため、主郭をはじめ街道に面する7つの郭、また、大手口、虎口といった部分に石垣を築きました。



第3郭の石垣のコーナー



主郭から第2郭、3郭を望む



赤穴瀬戸山城主郭から赤名市街地を望む

【1562年の戦い 烏田・森田氏の忠義】

1562年、瀬戸山城では、毛利元就の軍勢の到来を前に軍議が開かれていました。烏田権兵衛と森田左衛門は、赤穴氏は代々尼子へ仕えた家であり、尼子方として戦うべきだと主張しますが、城主の赤穴盛清は家の存続のため毛利氏に従うことを決めました。忠義の戦いを貫く烏田・森田は、城を出て賀田城に陣取り、兵糧を奪うなど毛利軍を悩ませました。

毛利軍に従ったはずの赤穴氏の家臣が進軍を妨害し、盛清がこれを鎮めないことに対し、毛利元就は盛清を問い詰めました。

盛清は「烏田・森田いわく、たとえ主君(盛清)は忠義を捨て給うとも、我々は武門の道に生き、赤穴氏の名を後世にとどめる所存と、私を励まし候。忠義一途の兩人を討つこと無道と心得、討伐を差し控え候」

これに対し、元就は「もっとも至極なご所存なり、あっぱれなる主従かな」と、盛清を古今の義者と褒め称えるとともに、このような忠義の武士が自分の味方に加わってくれたらどんなに頼もしいことだろうと近習の家臣に語ったといいます。

●賀田城跡

烏田権兵衛は飯南町下来島にある賀田城に本拠を置いたとされ、標高494mの松本山には、特徴的な虎口や飯南町では珍しい豎堀群が残っています。



毛利元就肖像(毛利博物館所蔵)



【城下町赤名】

江戸時代初め、堀尾吉晴から城を賜った堀尾家の重臣松田左近は瀬戸山城の改修を行うとともに、これまで古市(城の北方およそ2キロ)にあった市街地を移転させ、城下町として整備しました。

現在も残る、クランク状につくられた街道や役割ごとに町を貫く3本の通り、城の谷筋に配置された6つの寺院、奥行きが決められた横町型の町割りなどは、城下町と江戸時代初めの街並みの様子がコンパクトに残る事例として貴重とされています。

明治時代の絵図にクランクした街道の様子が描かれている。



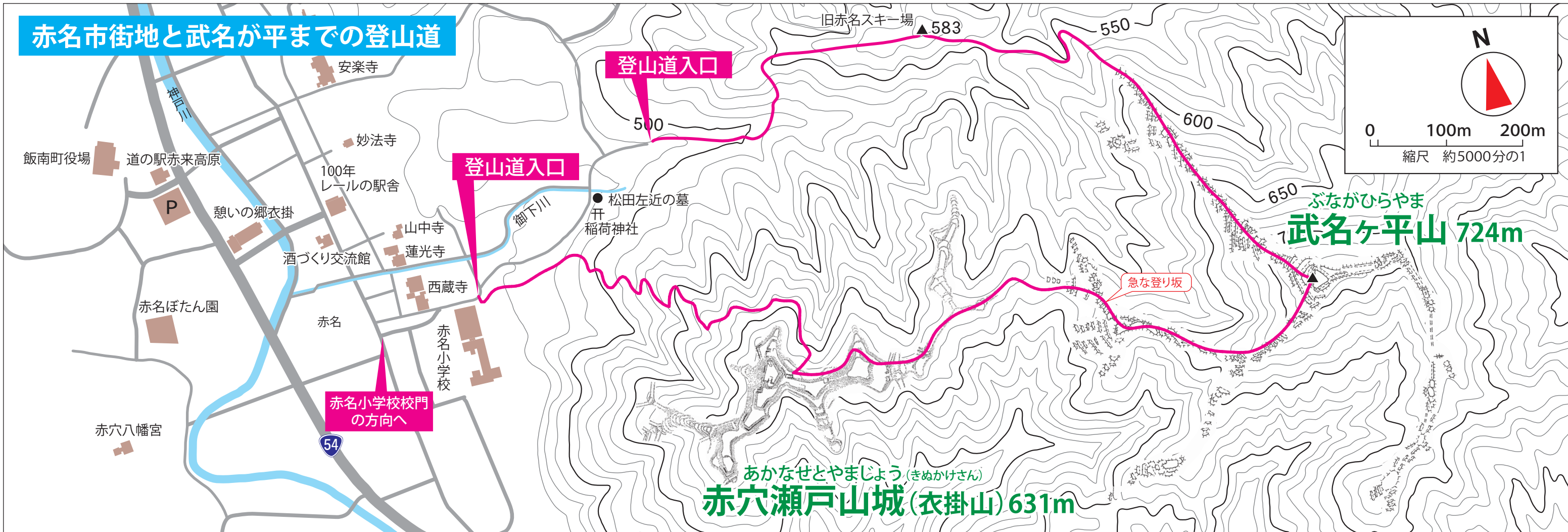
出雲国上赤名村道路水路絵図

山中鹿介幸盛の守り本尊である金毘羅大権現の木像を寺の鎮守として安置している。寺号も鹿介公の姓を名乗って山中寺とする。

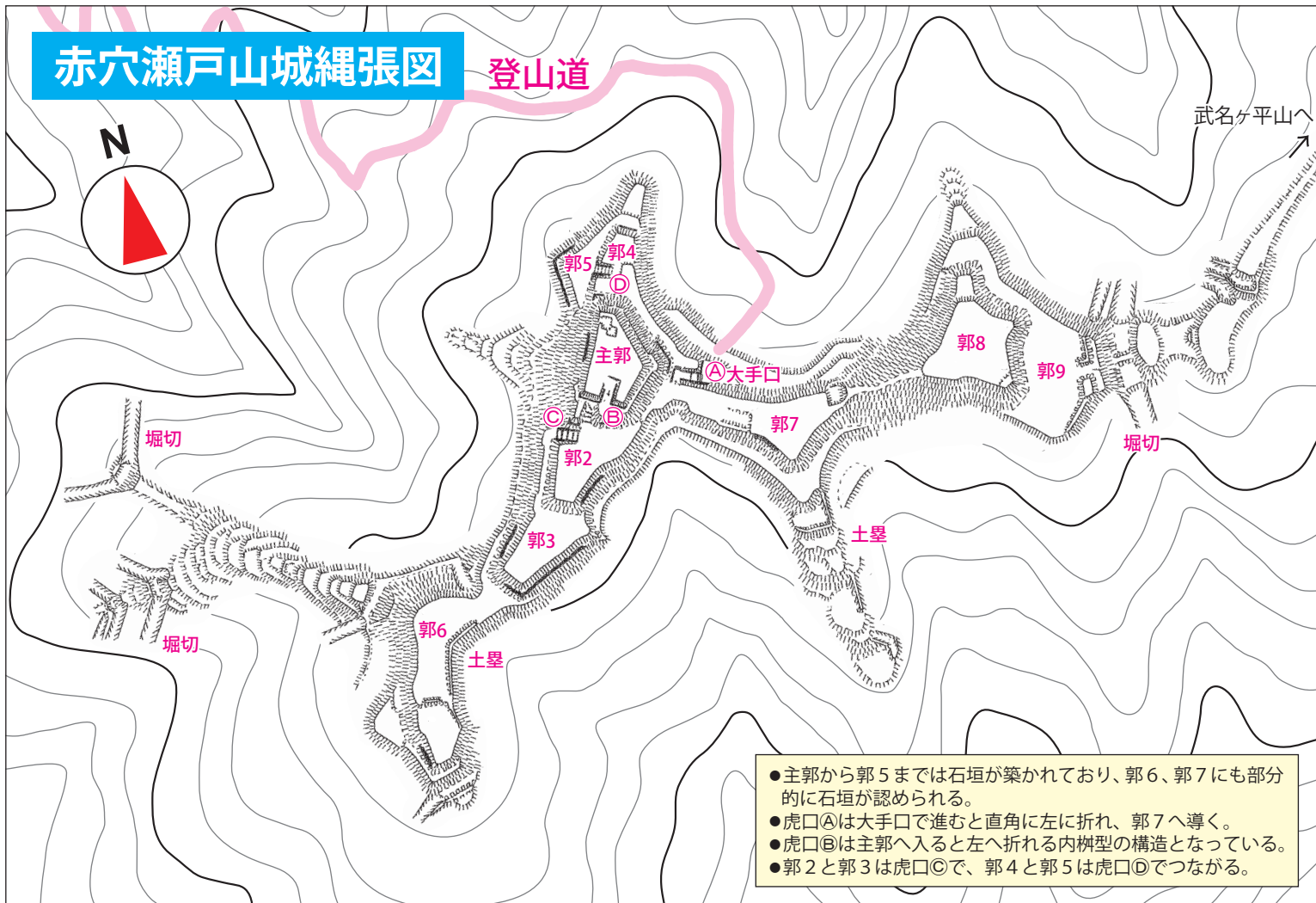


街道沿いに並ぶ6か寺の一つ山中寺

赤名市街地と武名が平までの登山道



赤穴瀬戸山城縄張図



●赤穴瀬戸山城鳥観図

関ヶ原の合戦後、出雲国に入国した堀尾氏によって石垣の城へと改修された赤穴瀬戸山城の推定復元図。



監修＝中井 均
イラスト＝香川元太郎／「歴史群像」2020年12月号初出（ワン・パブリッシング刊）